

いつまでもいっしょだよ

五年 高橋陽馬

ぼくのおじいちゃんは、ラブラドルレトリバーを飼っています。年れいは、十六才です。名前は、コルクです。ぼくは、二年生までおじいちゃんの家に住んでいたのですが、毎日コルクといっしょにボール遊びや散歩をしました。コルクは、泳ぐのが上手で川に遊びに行くこともありました。

今のコルクは、ねたきりの状態です。トイレに行けないので、おむつをしています。ご飯は細かくきざんだ物をスプーンを使って食べさせてあげます。おじいちゃんは、毎日コルクの足のマッサージをしたり、長い時間同じ姿勢でねていると床ずれになってしまうのでコルクの体を動かしてあげます。コルクは、筋肉が弱くなったので、自分でおしっこを出すことが大変です。おじいちゃんが一日に何回かコルクのほうこうをしげきしておしっこを出してあげます。このやり方は、じゅういしの先生が教えてくれました。

ホームセンターへコルクのおむつやおやつを買いに行くと、たくさんの子犬が売られています。その子犬たちをお客さんが、

「かわいいね」

と言って見えています。この人たちの中の何人が、この子犬がいつかは、今のコルクみたいになることを、想像できているのだろう。

ぼくは、動物を飼うには覚悟と、たくさんのお金が必要だと思っています。これから、動物を飼う人は、今だけではなくて少し先の事を想像してほしいと思います。ぼくは、今日もコルクに会いに行きます。そして、いつもの言葉をコルクに言います。

「いつまでもいっしょだよ。」